

(仮称) 第 3 期県立高校将来構想について

1 概要

本県では、高校教育を取り巻く諸状況の変化に対応するため、平成 13 年 3 月に「県立高校将来構想（計画期間：平成 13 年度から平成 22 年度）」を、また平成 22 年 3 月に「新県立高校将来構想（計画期間：平成 23 年度から平成 32 年度）」を策定し、魅力ある高校づくりを目指して、志教育の推進や地域のニーズに応える高校づくり、生徒数の減少に対応した学級減や学校再編などの高校教育改革に取り組んできた。

しかしながら、少子高齢化の急速な進展や東日本大震災後の社会環境の変化の中で、復興後を見据えた次代を担う人材の育成や地方創生、グローバル化への対応等が重要となっていること、また、様々な学習歴を持つ生徒一人一人が、個性や能力を活かして学び、地域社会の一員として能力を発揮していくことができるよう体制を整えていく必要があることなどから、次期将来構想を 2 年前倒して策定することとし、平成 29 年 7 月より有識者等で構成する「県立高等学校将来構想審議会」を開催し、検討を進めている。

第 5 回審議会までの議論を踏まえ、今年 6 月には答申中間案を公表した。6 月から 7 月にかけて実施したパブリックコメントや地区別意見聴取会でいただいた意見を踏まえて、8 月 28 日に開催した第 6 回審議会において答申案について検討したところであり、今年度中の策定を目指している。

2 県全体での学校配置の考え方

本県は平成 22 年度から全県一学区となりました。当初は特定の地区や学校への生徒の集中が懸念されたものの、平成 26 年 7 月の県立高等学校将来構想審議会における検証結果では、一定の地区間の流動性は認められたものの、特定の地区や学校への生徒の集中は見られず、多くの場合、近隣の高校へ進学する傾向が見られました。

このことから、各地区の高校への進学実績や公共交通機関の状況、生活圏等を考慮して、一定の地域的なまとまりの中で学校配置を考えていく必要があります。地区によって、中学校卒業生数の見込みやその減少率、所在する高校数や地区内での配置等の状況は異なりますが、いずれの地区においても、生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整備し、教育の機会均等を確保する必要があります。

各地区での学校配置を考えていく上では、その地区における高校の在り方を踏まえて、学習環境や課外活動の充実を図るため、通学への影響や地区内での学科バランスなどにも配慮して検討します。

(「第 6 回県立高等学校将来構想審議会」時点)

3 大崎地区の高校配置の方向性

答申案では、さらに「地区別の高校配置の方向性」を示しており、大崎地区に関しては以下のとおりである。

《今後10年間の方向性》

半数以上が3学級以下の高校であり、充足率が低い状況にあります。今後の中学校卒業生数の減少を考慮すると、再編を含めた学校の在り方を検討する必要があります。

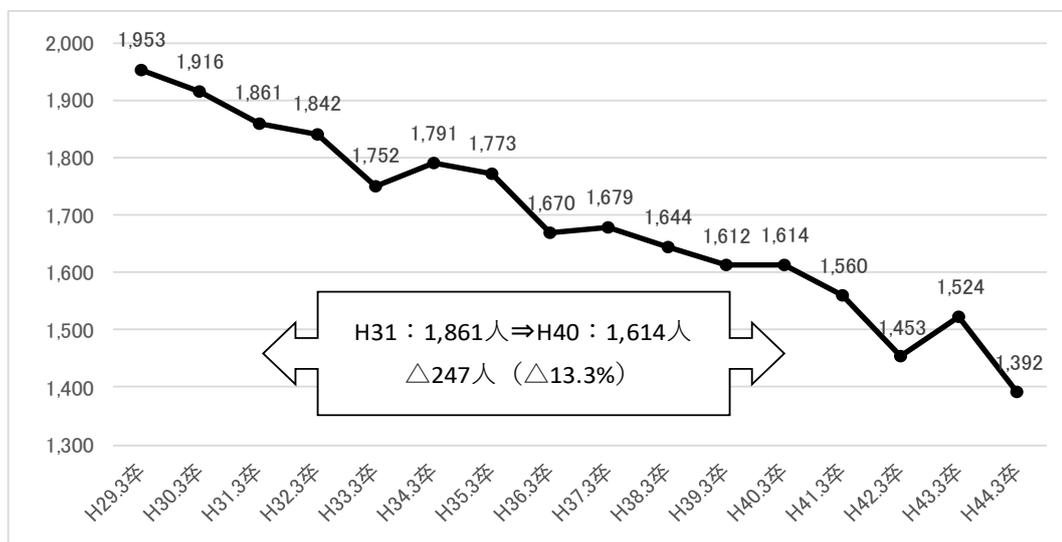
ただし、区域が東西に広く、地域ごとに交通事情や地域特性も異なることから、いくつかのブロックに分けて学校の在り方について検討した上で、再編等を進めます。

(「第6回県立高等学校将来構想審議会」時点)

【参考1】大崎地区の全日制高校の状況

学校数	11校
学校規模 (平成30年度の設置学級数)	4学級以上：5校 3学級以下：6校 平均：3.9学級
学科構成	○普通科が56%を占める。 ○その他は、総合学科と農業、工業、商業、家庭系の専門学科が設置されている。
進学者の状況	地区内中学校から地区内全日制公立高校への進学率：69.8%
今後の中学校卒業生数の推移	平成31年：1,861人→平成40年：1,614人 (仮称)第3期県立高校将来構想期間中の平成31年から平成40年の間に247人減少(13.3%減)

【参考2】大崎地区の中学校卒業生数の見込みについて



【参考3】大崎地区における高校の定員及び学級数

ブロック	高校	学科	定員 (1学年)	学級数 (1学年)
旧古川市部	古川	普通科	240	6
	古川黎明	普通科	240	6
	古川工業	土木情報科	40	1
		建築科	40	1
		電気電子科	40	1
		機械科	80	2
		化学技術科	40	1
合計	240	6		
東部	松山	普通科	40	1
		家政科	40	1
		合計	80	2
	鹿島台商業	商業科	120	3
	涌谷	普通科	160	4
	南郷	普通科	40	1
		産業技術科	40	1
		合計	80	2
	小牛田農林	農業技術科・農業科学コース	40	1
		農業技術科・農業土木コース	40	1
総合学科		120	3	
合計		200	5	
西部	岩出山	普通科	120	3
	中新田	普通科	120	3
	加美農業	農業科	40	1
		農業機械科	40	1
		生活技術科	40	1
		合計	120	3

※東部ブロックは遠田郡と旧志田郡のエリアとし、西部ブロックは加美郡と旧玉造郡のエリアとしている。